

花一会図書館便り

8・9月号（令和4年9月1日発行）

【TEL&FAX】
0136-57-6085
【MAIL】

hanaichie@voice.ocn.ne.jp
【発行】蘭越町花一会図書館

花一会ホームページ



Facebook



Instagram



Twitter

第7回

「郷土探索への道 黒沢温泉編(番外編)」

薬師温泉と薬師神社

前回は、黒沢龍雄と黒沢温泉について当時の逸話や様子をお伝えしましたが、今回は番外編としてそのインタビュー時に聞いた薬師温泉と薬師神社にまつわるお話をお伝えしたいと思います。同じ薬師という名前がついている温泉と神社には、何か関係があったのでしょうか。

薬師温泉は明治32年、温泉を発見した成田元吉が成田温泉の名で営業を開始します。その後何名かの手に渡ったのち、昭和29年に佐伯孝雄が買い取りました。佐伯は成田温泉を薬師温泉と改称して経営を三国ツヤに任せました。改称された昭和29年の時点ではまだ薬師神社は建設されていません。薬師という名はどこからつけられたのでしょうか。お話を伺った平岡敏昭さんによると、経営を任された三国は元々小樽に住んでおり、体が丈夫ではなかったそうです。そして小樽の薬師神社を信心していたようで、神社の病氣平癒・健康祈願のご利益に預かりたいという思いで薬師という名にしたのではないかとのことです。

薬師神社は現在常駐している神職はおらず、毎年5月と8月に小樽の薬師神社の神職が礼拝にいられています。小樽の薬師神社といえば、「薬師神社の坂」の名前の元になった神社であり、ご存じの方も多いのではないのでしょうか。国家安泰、病氣平癒・健康祈願等のご利益があるそうです。ではなぜ小樽の方が日出の地に神社を建設したのでしょうか。野口信子さんと平岡さんのお話によると、当時の小樽薬師神社の神職のお母様が「蘭越町日出地区の温泉の近くに神社を建てなさい」と枕元に立った神様からお告げを受けたという話があったとか…。その後昭和40年代後半に小樽の薬師神社から黒沢龍雄の弟に売買の話を持ち掛けたようです。そして昭和50年代前半に神社の社が建設され、それと同時に参道も整備され、現在の姿になりました。

神社と温泉という一見関係がなさそうな2つは、神様のお告げという不思議な力と健康祈願という願いによって結び付けられていました。

最後にお知らせがあります。この「郷土探索への道 黒澤温泉編」を連載するきっかけをいただいた北海道文学館学芸課長 苫名直子氏をお招きして、10月8日（土）13時半から町民センターで図書館講座を開催します。ご興味のある方はぜひお越しください。詳しくは図書館講座のチラシやポスターをご覧ください。花一会図書館にお問い合わせください。

今月のおすすめ本 コーナー



『夜に星を放つ』

窪美澄 著 (文藝春秋)

誰もが心の奥に抱えているかもしれない足元が崩れそうな孤独や、疎外といった感情に緩やかに、しかし確かに寄り添う五編。例えば一日が終わる時に、見上げた空が満点の星々だったら、それだけで明日に希望が繋がるような珠玉の短編集。
(蘭越町 笠井三葉留)



『わたし生活保護を受けられますか』

特定行政書士 三木ひとみ 著
(ペンコム)

もう一度、明日へ。歩み出すための本
上野千鶴子氏推薦!

裏ワザや特別な方法が載っているわけではない。生活保護制度は困っている人のための希望の光なのだ、「偏見」や「誤解」を解いて正しく申請し決定までたどり着けるように、法令に基づき事例も交えて優しく丁寧に解説してくれる一冊。



『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬 著 (早川書房)

独ソ戦で女性狙撃兵が活躍したという史実を背景に、フィクションとしての主人公が辿る戦闘と復讐の記録。殺し殺される戦場でその狂気が何によってもたらされるのか。優れた文学はその問いに、想像性の翼をもって明確な指針を示すのだ。
(蘭越町 笠井三葉留)



『伝え継ぐ日本の家庭料理 四季の行事食』

日本調理科学会 編
(農山漁村文化協会)

昭和 35 年～45 年に全国各地で定着していた家庭料理を聞き書き調査で掘り起こした本シリーズ。調理法はもちろん、各料理についてのエピソードも歴史や文化が伺えて楽しい。一緒に作って一緒に食べる、その中で受け継がれてきた行事食だ。

アートに溺れる

9月11日
中央展示にて展示中

↓世界一売れている美術史本



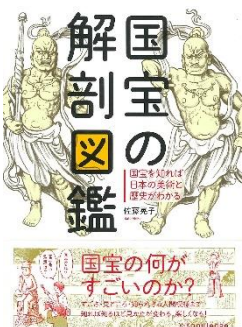
『きちんと描ける花スケッチ』
(グラフィック社)



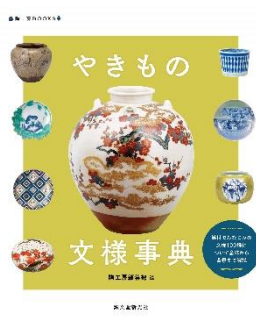
『美術の物語』
エルンスト・H・ゴンブリッチ
(河田書房新社)



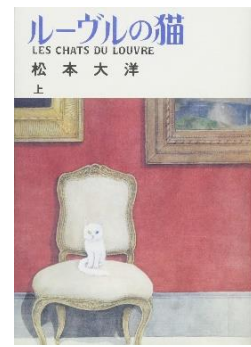
『名前のないデザイン』
Works That Works 編集部
(グラフィック社)



『国宝の解剖図鑑』
佐藤晃子 (エクスナレッジ)



『やきもの文様事典』
陶工房編集部 (誠文堂新光社)



『ルーヴルの猫 上下』(マンガ)
松本大洋 (小学館)